

## ちょっと待った！もったいないを減らし、ありがとうの食循環へ



こんにちは！コレクティブふくおか+事務局です。

コレクティブふくおか+の「フードロス」チームが、社会課題の解決に向けて取り組んでいる特定非営利活動法人フードバンク福岡の現場へ伺い、インタビューした記事をまとめてくれました。ぜひ、ご一読ください。

”フードロス” この言葉を聞いて、皆さんはどんなことを想像しますか？ フードロスとは、売れ残りや食べ残し、期限切れ食品など、本来は食べることができたはずの食品が廃棄されることを言います。

このフードロス、実は環境にかなりのダメージを与えてしまうのです。日本では、食べ残しや売れ残りによって捨てられた食品を焼却処分するのですが、そのときに、二酸化炭素が排出されてしまいます。これが地球温暖化につながります。農林水産省と環境省が毎年発表する最新の統計によると、フードロスの量は約600万トンとされています。食品を焼却処分する際の二酸化炭素排出量計算式は存在しないため、具体的な排出量はわかりませんが、この600万という数字は、二酸化炭素を計り知れないほど排出してしまうのではないかと私は考えます。

化石燃料を再生可能エネルギーに変えたように、フードロスの観点からも地球温暖化について考え、行動に移すべきなのではないでしょうか？

さて、そんなフードロスをなくすために、人知れず努力を積み重ねている団体が「フードバンク」。

フードバンクとは、“食糧銀行”を意味する社会福祉活動であり、包装の傷みなどで品質に問題がないにもかかわらず市場で流通出来なくなった食品を、企業から寄附を受け生活困窮者などに提供する活動およびその活動を行う団体を指します。



そんな社会福祉活動を行う団体が、福岡市にもあります。その名も“フードバンク福岡”。子ども食堂や学校、福祉施設へ食品を支援する事業を主に行っています。ということで、今回私たち「フードロス」チームは、フードバンク福岡の事務局長 岩崎さんに「フードバンク福岡」についてお話を伺いました。

### 【139】

見出しを見て、“139”って？ そう思った方も多いのではないのでしょうか。

フードバンク福岡では、安全に食べられるのに包装の破損や過剰在庫、印字ミスで流通できないという食品を、メーカー等から寄贈していただき、必要としている施設や団体、困窮世帯に無償で提供しています。

つまり、食品は、メーカー等 → フードバンク福岡 → 食品を必要としている方、という流れになっています。

さて、もうお気づきの方もいるかもしれませんが、そう、見出しの139という数は、フードバンク福岡に寄贈して下さるメーカー等の数なのです。（2021年3月現在）

これほどまで多くのメーカーの協力を、フードバンク福岡はどのようにして獲得していったのでしょうか。その答えは、「責任」と「信頼」というキーワードが関係しています。岩崎さんによると、「実績を積むことでメーカーさんからの信頼を獲得していきました。今では、メーカーさんがほかのメーカーさんに協力を依頼することもあります。また、食品を扱うときは倉庫の衛生・安全管理などを徹底し、大量に扱うため責任を持って、慎重に扱っています。」とのこと。責任を持って食品を扱うからこそ実績が生まれ、その実績が信頼を生み、さらにその信頼が支援の輪を広げていく。ということではないでしょうか。

このように、フードバンク福岡は一団体として責任感をしっかりと持って活動し、そして、信頼関係を大切にすることで、139社という多くのメーカーから食品を提供して頂いています。今までの地道な努力が花開き、現在ではフードバンク福岡さん以外には食材を提供しないという企業も出てきていると言います。”信頼”と”責任”を大切にするフードバンク福岡は、今後さらに提供して下さるメーカーを増やしていくことでしょう。

### 【社会の“今”に寄り添う】

先に述べた、フードバンク福岡へ食品を寄贈して下さる139社。インタビュー前の私は、「139社も寄贈して下さるメーカーがいるなんてすごい！」と感じていました。

しかし、139というこの数をもって、支援を行なっていく上では不十分であるということが、インタビューを通して判明。その理由として、“社会の変化”が挙げられます。近年、ひとり親世帯数は増加傾向がみられています。

「ひとり親世帯の中でもシングルマザーの2世帯に1世帯は貧困状態にあり、生活が苦しくて食品の支援を受けたいという方が多くいらっしゃいます。さらには、コロナ禍になり、留学生

や大学生、非正規雇用の方々などの中にも生活が苦しくなった方々がいらっしゃいます。それに伴い、食材の支援を希望している方が増加しているのです。これらの社会情勢より、フードバンクのような支援団体の需要は高まっています。」と岩崎さんはおっしゃっていました。

また、「実際、フードバンク福岡を設立した頃は、フードバンク福岡が食品を提供する団体が14団体であったものの、今は170団体にまで増えている」というお話もしていただきました。この“約12倍”という数字からも、支援団体の需要が高まっていることがうかがうことができます。



「まだまだ支援の輪を広げていく必要がある。」と岩崎さんは言います。インタビューを終えたいま、私もそう思います。“今”の社会に寄り添っていくために、まだまだ支援の輪を広げていく必要がある。社会は、“今”、この瞬間も移り変わるものです。だからこそ、どんなことが起きても、いつ何時も対応できるように支援の輪を広げ、事前に食品提供の準備をしておく必要があるのです。メーカーだけでなく、私たちも支援の輪に入ることができます。その方法はボランティアや食品提供、お金の支援などいくつかありますが、まず挑戦しやすいのが、食品提供だと私は思います。これは、至ってシンプルなもの。食品の、事務所・倉庫への配送・配達(宅配便など)や、持ち込みです。

フードロスが減らすことは、誰でも簡単にできるんです！例えば、食べ物が家に置いてあるとき、おやつの時間についつい手に取って食べてしまう、もうすぐ賞味期限だからといってお腹がいっぱいでも食べてしまう…。ああ、太ってしまった…。なんてこと、ありませんか？体

型維持を頑張っている方！ダイエットをしている方！チャンスです！！食品を提供することで、もったいないからありがたいに変えることができます。

その他、スーパーやコンビニなどでお買い物をするときに、陳列棚の手前にある消費期限や賞味期限の近い商品をすすんで買う「てまえどり」を行うことで、フードロス削減につながります。

これを見て、少しでも共感した方、やる気のあるうちに、食品提供や「てまえどり」を実践してみませんか？

参考文献：農林水産省「てまえどり」について

リンク先

[https://www.maff.go.jp/j/shokusan/recycle/syoku\\_loss/temaedori.html](https://www.maff.go.jp/j/shokusan/recycle/syoku_loss/temaedori.html)



### 【フードバンク福岡が備える未来】

私、この2年間でお家時間が増えて、家でTVを見たりスマホでニュースを見る時間が増えたんです。そうやって家で過ごしているとき、食べ物に困っている方がマスコミで取り上げられている場面を度々目にするんです。1日3食素うどん、さらには、1日3食食べられない...なんてことも。コロナ禍ということもあって、収入が減り、食べることに困っている方が増えたんだ、大変だなあ、としか思っていないませんでした。

しかし、私が見ていたものはごく一部であり、それが全てではありません。「本当に深刻な状況すぎて、声を上げづらい人がいる。」岩崎さんのこの言葉が脳裏をよぎります。マスコミで取り上げられている以上に、深刻な状況にいる方も多くいます。

そんな方たちを見逃さないために、フードバンク福岡は、食品を提供している方や団体と幾度も面談を行い情報収集に努めています。岩崎さんは、「フードバンク福岡では、これからも日々活動を進めていき、フードバンクから困っている方へ提供してほしい、と思ってもらえるような団体になりたい」とおっしゃっていました。

また、「人材の育成も同時に進め、未来へ繋ぐことにも力を注いでいく」と。この話を聞き、私は、フードバンク福岡はフードロスの“今”だけでなく、“未来”をも見据えているのではないかと感じました。今苦しんでいる、支援を必要としている方には安定した食品提供を。未来に苦しむ方がいたときのために、今のうちから後進の育成を。「今自分たちが関わっているから支援をする。それ以外は自分たちには関係ない。」ではないのです。未来のことまで考える。その未来への道筋に私も乗って、私の出来る支援から始めていきたいと思いました。



これまで、フードバンク福岡について掘り下げて書き記してきました。いかがでしたでしょうか。

今私たちができることは、フードロスを少しでも知ること、フードバンクに食材を提供すること。“フードロスを少しでも知ること”この項目はもう、記事を読んできたあなたは達成しました。

これが、フードロス削減の、そして、支援の第一歩となります。たったフードロスを知ること、されどフードロスを知ること。少しの考え方、行動で、救われる誰かがいるのです。もったいないを減らし、ありがたいの食循環をいっしょに創りませんか。

参考文献：

農林水産省「食品ロス量（平成30年度推計値）の公表について」

リンク先：<https://www.maff.go.jp/j/press/shokuhin/recycle/211130.html>

環境省発表「我が国の食品廃棄物等及び食品ロスの発生量の推計値（平成30年度）の公表について」

リンク先：<https://www.env.go.jp/press/109519.html>

### 《あとがき》

今回のインタビューではフードロス削減活動に関わる方の“生の声”を聞くことで、私たちが今できる「フードロスについて知ること」と「食品の支援をすること」がいかに重要なのかを実感することが出来ました。また、岩崎さんは常に人のために想って活動しており、「こんなにも第三者のことを考え、それを行動に移せるって素敵だな。」と感じました。私も、岩崎さんのように“人のために”を想って、行動できるような人になっていきたいと心から思いました。

【フードロス チーム】しゅん（大学生）・Y（大学生）・おさかな（大学生）

（取材日：2021年12月20日）